

①計報 平成 25 年 2 月 13 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

10 文乙	高山 栄一	平成 25 年 2 月 1 日	横浜市戸塚区
13 文甲	周 平八郎	平成 25 年 1 月 30 日	東京都渋谷区
18 理甲 2	前田 太郎	平成 24 年 11 月 13 日	西宮市
20 理 1	松本 圭史	平成 25 年 2 月 3 日	神戸市
21 文乙	渡邊 榮衡	平成 25 年 1 月 29 日	東京都世田谷区

②住居・勤務先変更 連絡なし

③午餐会・懇話会 2 月は休会

④各地寮歌祭 連絡なし

⑤支部だより

* 阪南支部

毎月第 2 木曜の 13 時から「二木会」を開催しており、毎回 4～5 名が出席しています。会場の「本店 嶋川」の社長が昨年死去され、しばらく閉店中で、臨時に別の店を利用して来ましたが、「嶋川」のシェフが堺東に「フランス食堂 Continuer」を出店しましたので、2 月から会場として利用することにしました。(会費 3000 円、飲み物別)
3 月 14 日ご出席の方は世話人の武田までご連絡下さい。4 月 11 日は懇話会と協同企画で南河内方面半日バス観光のあと 17 時半から開催します。(別途案内をご覧ください)

⑥同期同級交歓 連絡なし

⑦運動部・同好会だより

* 待兼山俳句会

第 519 回 24 年 11 月 24 日 (日) 吟行 於 奈良公園とその周辺

第 520 回 24 年 12 月 17 日 (月) 於 大阪倶楽部会議室

第 521 回 25 年 1 月 21 日 (月) 於 同 上

第 522 回 25 年 2 月 18 日 (月) 於 同 上

ホームページを開設しています。句会報は下記の URL を開いてご覧ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/haikukai/>

⑧報告

平成 24 年度収支決算監査

去る 25 年 2 月 6 日 (水) 経理委員会を開催しました。

川島会長、鶴岡副会長(監事兼務)、真銅副会長、城野監事、武田総務委員、松浦総務委員、阪田事務局補佐の 7 名で 24 年度の収支につき報告、審議、承認されました。

収入計 1,428,225 円 前年度繰越金 4,878,885 円

支出計 2,411,706 円 来年度繰越金 3,895,404 円

同窓会費を徴収していないので毎年約 100 万円の赤字となり、27 年度で運営を終了せざるを得ない見通しです。

25 年度の午餐会の運営につき鶴岡副会長から幹事 1 名では万一の際不安があるので、講師との事前打ち合わせ体制を複数制にすべきであるとの要望がありました。

■ご案内

* 船場大阪を語る会 第 166 回例会 (前号にも掲載)

日時 25 年 3 月 16 日 (土) 午後 1 時 30 分～4 時

会場 さいかくホール (府庁新別館北館 1 階)

アクセス 地下鉄 (谷町線・中央線)「谷町 4 丁目駅」下車、①出口を出て、そのまま地下道を北へ 100m、突き当たりを右へ、奥のエレベーターをご利用下さい。

講師 追手門学院大学名誉教授 宇田 正 氏

演題 「大阪の私鉄と河港」

会費 1000 円 (入会金、年会費不要)

連絡先 船場大阪を語る会事務局 三島佑一 (22 理 2) 方

〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-12-10-609 電話・Fax. 06-6532-3094

追 慕

■ 榎野幾之輔先輩逝く 17 理甲 1 栗野 正之 (剣友会誌第 70 号より転載)

平成 24 年 10 月 21 日、榎野幾之輔先輩が亡くなられた。享年 95 歳の天寿を全うされた。浪高尋常科に偕行社小学校から入学され、浪高 8 回理乙を卒業され、大阪大学医学部を経て陸軍軍医になられた後も、有備館道場にお顔を見せられ、後輩を激励されたのを覚えている。戦後は、小児科医として池田市井口堂で開業され、剣友会が阪大微研の馬小屋の隣接の道場で開かれたときには、会後に榎野邸に招かれ、家伝の宇和島の鯛飯を御馳走になったのも楽しい思い出である。その頃、車は少なかった時代かもしれないが、榎野先輩は自ら買出しに行かれたと伺った。

剣友会を通じて、先輩の警咳に接すること 70 年、優しく教えられて来ました。

曰く、植物を育てよ。曰く、健康を保つには、ビタミン C を摂取しよう。

曰く、歩こう。「待兼山を含めて、北摂の山忘れじ」の会に引継がれている。

浪高の良識であり、剣友会の心の深さであり、良き後輩を育てる先輩の鑑であった。

平成 8 年 12 月 17 日、剣友会幹事を務められた曲直部先輩が亡くなられて後は、榎野先輩が幹事を務められて今日に至っております。

榎野先輩は、浪高剣友会の後輩を導いて、忘れられぬ大先輩でありました。

■ 松本圭史君を偲ぶ 20 理 1 大塚 穎三

松本圭史君 (20 理 1) の訃報に接し、暗然たる想いです。同君は神戸一中から稀に見る秀才の 1 人として浪高に入学されました。3 年間、クラスメンバーの 1 人として級友の尊敬と友愛を一身に集めた人でした。体育競技の類は格別人に優れていたとは思えませんが、数学、物理、化学、語学はバランスのとれた好成績で常に上位にあったことは事実です。とりわけ数学と物理が一番好きだと言っていました。大学は理学部へは進まず、医学部を選びました。「君に遠慮したのだ」と半ば冗談で語っていましたが、理学部物理学科へ進んだ私よりも物理の成績は上位だったと思います。

医学部では病理学という基礎部門を専攻され、各種の賞に輝く成果を挙げられ、阪大医学部同窓会会長を長く務められたと聞いています。

友情、信義に篤く、私の同僚、知人、教え子及びそれらの家族が罹病した場合、いつも彼のお世話になっていました。彼自身が治療に当たる訳ではありませんが、常に最高の医師を紹介して下さり、私自身を含めて命を救われた患者は数知れません。私が腎臓疾患で入院中、院長回診がありましたが、回診の後で、院長が「失礼ですが貴方は松本先生とはどのようなご関係ですか？」と訊かれ、「高校 3 年間のクラスメートで親友の 1 人です」と答えると納得され、私のことを「稀代の物理学者 (?) だから、粗略に扱うなどプレッシャーをかけられました」と笑っておられました。

一昨年白寿で他界された 2 文甲の五島忠久先輩が、我々のクラスの担任で、先生を中心に「チップス会」というクラス会が組織されましたが、世話人の海堀寅一君は、松本君と私をとことん頼りにしてくれました。この海堀君は返還義務の一切ない奨学資金を提供する「財団法人海堀奨学会」の設立者ですが、この会の理事を松本君と私は 30 年間一緒に務めました。

また「世話して下さった医師の先生にどのようにお礼したらよいか？」と相談すると、「医師という者は患者さんが治ってくれるのが最大の報酬である。何も贈る必要なし」と明快に断言されました。「医は仁術なり」という格言を絵に描いたように実践された方でした。謹んでご冥福をお祈りする次第です。合掌。